

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）

〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 24 JUN 2005

WIPO

PCT

| | | |
|--|------------------------------------|---------------------------|
| 出願人又は代理人 の書類記号 NC-289 | 今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。 | |
| 国際出願番号 PCT/J P 2004/011103 | 国際出願日 (日.月.年) 28.07.2004 | 優先日 (日.月.年) 28.07.2003 |
| 国際特許分類 (IPC) IntCl. ⁷ G03F7/023, 7/004, 7/022 | | |
| 出願人 (氏名又は名称) 日産化学工業株式会社 | | |

| |
|--|
| <p>1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>4</u> ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で _____ ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）</p> <p><input type="checkbox"/> 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）</p> <p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</p> |
|--|

| | | |
|---|------------------------------|---------|
| 国際予備審査の請求書を受理した日 17.12.2004 | 国際予備審査報告を作成した日 13.06.2005 | |
| 名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 | 特許庁審査官 (権限のある職員) 倉持 俊輔 | 2H 3209 |
| | 電話番号 03-3581-1101 内線 3231 | |

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則 70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

| | | | |
|----------------|-------|--------|---|
| 新規性 (N) | 請求の範囲 | 2 | 有 |
| | 請求の範囲 | 1, 3-9 | 無 |
| 進歩性 (IS) | 請求の範囲 | | 有 |
| | 請求の範囲 | 1-9 | 無 |
| 産業上の利用可能性 (IA) | 請求の範囲 | 1-9 | 有 |
| | 請求の範囲 | | 無 |

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 2003-195501 A (富士フイルムアーチ株式会社)
2003. 07. 09, 【特許請求の範囲】, 【0015】, 【0046】,
【0048】, 【0054】, 【0055】, 【0087】～【0092】

文献2: JP 2001-242616 A (富士フイルムアーチ株式会社)
2001. 09. 07, 【請求項1】, 【0013】,
【0040】～【0045】, 【0056】

文献3: JP 2001-354822 A (ジェイエスアール株式会社)
2001. 12. 25, 【請求項1】, 【0027】～【0028】,
【0039】, 【0043】, 【0058】～【0061】

文献4: JP 7-120925 A (東ソー株式会社)
1995. 05. 12, 【請求項1】, 【0017】～【0018】,
【0023】～【0023】, 【0040】

請求の範囲1, 3-9に係る発明は、文献1により新規性及び進歩性を有しない。
また、前記請求の範囲に係る発明は、文献1と文献2とにより進歩性を有しない。

文献1に具体的に記載された不飽和カルボン酸誘導体とN-置換マレイミドとを
必須成分とする共重合体は、質量平均分子量が約1.5万であるから、数平均分子量
が2,000～20,000の範囲に含まれる蓋然性が高い。そして、文献1には、
一般式(1), (3), (4)で示される1,2-キノンジアジド化合物に該当する化合
物が示唆され、樹脂に対して5～100重量部含有することが記載されている。また、
一般式(2)で示される架橋性化合物に該当する架橋剤を樹脂に対して5～50重量
部含有することが記載されている。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

また、請求の範囲 1, 3-9 に係る発明は、文献 1 と文献 2 とにより進歩性を有しない。文献 2 には、一般式 (1), (4) で示される 1, 2-キノンジアジド化合物に該当する化合物が具体的に記載されている。文献 1 に記載された発明において、文献 2 により教示された 1, 2-キノンジアジド化合物を採用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲 2 に係る発明は、文献 1 により進歩性を有しない。アルカリ可溶性樹脂の残留モノマーは不純物であるから、当業者が適宜少なくするよう調整し得るものである。

請求の範囲 1-9 に係る発明は文献 3 と文献 4 とにより進歩性を有しない。

文献 3 には、不飽和カルボン酸誘導体と N-置換マレイミドとを必須成分とする共重合体であり、数平均分子量が 2,000~20,000 のアルカリ可溶性樹脂と、一般式 (1), (3), (4) で示される 1, 2-キノンジアジド化合物と、環状脂肪族エポキシ樹脂とを含有するポジ型レジスト組成物が記載されている。

そして、文献 4 には、一般式 (2) で示される架橋性化合物が記載されている。

文献 3 に記載された発明において、文献 4 により教示された架橋性化合物を採用することは、当業者にとって容易である。

また、アルカリ可溶性樹脂の残留モノマーの量は、当業者が適宜調整し得るものである。